

A. 主な動き

1. 内政

ティモシェンコ前首相に対する暴行の可能性

- ・24日、ティモシェンコ前首相は、20日にハルキフ市カチャニフスク刑務所からハルキフ市国鉄中央病院に移送された際に同刑務所職員より暴行を受けたとし、同20日よりハンガーストライキを開始した旨声明を発表。これに対し、同日、国家刑務所管理庁は、暴行の事実や同前首相の名誉及び尊厳を傷つける行為はなかった旨発表。
- ・24日、欧州委員会は、本件に関しウクライナ政府からの説明を求める旨の声明を发出。同日以降、フューレ欧州拡大・近隣政策担当欧州委員、ミニョンP A C E議長、ヤーグラン欧州評議会事務総長、ヴェスターヴェレ独外相、露外務省等は、本件に対する懸念等を表明する声明を发出。
- ・25日、カルパチョヴァ最高会議オンブズ・パーソンは、カチャニフスク刑務所を訪問、ティモシェンコ前首相と面会し同前首相が負傷していることを確認した旨発表。27日、同最高会議オンブズ・パーソンは、殴打による同前首相の痣とされる写真を公開。
- ・25日、検事総局は、23日にプシオンカ検事総長が本件に関する調査をハルキフ州検察長に指令した旨発表。同日、国家刑務所管理庁は、ティモシェンコ前首相はハンガーストライキ開始に関する宣言を行っていない旨発表。
- ・26日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ティモシェンコ前首相の病院への移送の際の状況の調査を検事総局に指示した旨発言。同日、地域党は、同前首相に対する暴行は非現実的な作り話であり、同前首相の犯罪行為から国内外の注目をそらす目的によるPRであるとする旨の声明を発表。

刑事訴追に関する動き

- ・23日、国家刑務所管理庁は、ボハティリョーヴァ副首相兼保健相に対し、「ウクライナ統一エネルギー・システム」社に関する公判に健康状態に不安があるとするティモシェンコ前首相を出廷させることの可否に関する判断を要請。
- ・23日、キエフ市ペチェルスク地区裁判所は、ユーシチェンコ前大統領毒殺未遂事件の際の違法捜査の疑いによるルツェンコ前内相に対する公判を開始。
- ・27日、イヴァシチェンコ元国防相代理は、権限逸脱の疑いにより懲役5年等のキエフ市ペチェルスク地区裁判所による2日付有罪判決を不服とし、キエフ市控訴裁判所に控訴を申し立てた旨発表。
- ・27日、野党支持者2,000名は、ティモシェンコ前首相の解放等を求めキエフ市中心部で「弾圧のないウクライナ」運動と題するデモを実施。

ドニプロペトロフスク市連続爆発事件

- ・27日、ドニプロペトロフスク市にて4回の爆発事件が発生。同爆発事件によって30名(5月2日現在)が負傷。
- ・27日、ヤヌコーヴィチ大統領は、検事総局、国家保安庁及び内務省に対し特別捜査の実施、閣僚会議、保健省及びドニプロペトロフスク州政府に対し負傷者の治療体制の確保等を指令。同日、内務省は、ザハルチェンコ内相を責任者とした捜査本部を設置。

最高会議選挙に向けた動き

- ・20日、ティモシェンコ前首相は、最高会議選挙に向けた野党協力の最大の脅威は「スヴォボーダ」党及び「ウダール」党によって独自の選挙運動が展開される可能性にある旨発表。これに対し、23日、「スヴォボーダ」党は、同前首相の指摘は根拠のないものであるとし、主要野党による「専制政治反対委員会」からの同党の脱退を示唆する旨の声明を発表。
- ・23日、地域党は、クリューエフ国家安全保障 国防会議書記を最高会議選挙における同党選挙対策本部長として同本部の活動を5月1日に開始させる旨、及び、同党の比例代表名簿上位5名は7月31日の党大会において決定する旨発表。
- ・23日、ティモシェンコ「パチキフシナ」党党首(前首相)及びヤツェニューク「変化の前線」党党首は、「パチキフシナ」党をベースとした統一比例代表区名簿を作成し、両党首を同リスト最上位に掲載する旨の合意文書に署名。同日、「パチキフシナ」党は、トゥルチーノフ同党第一副党首を最高会議選挙における野党統一選挙対策本部長とする旨決定。

最高会議の動き

- ・24日、最高会議は、450名中252名の賛成によりルトコフスカ欧州人権裁判所担当ウクライナ全権を最高会議オンブズ・パーソンに選出。これに対し、27日、BYT及びNUNSAは、同選出過程で不正が行われたとし、同氏をオンブズ・パーソンとは認めない旨の共同声明を発表。
- ・24日以降、BYT議員は、ティモシェンコ前首相に対する暴行等を理由に最高会議議場を封鎖。
- ・27日、最高会議は、ドニプロペトロフスク市の連続爆発事件対応のために臨時会議を開催、新たに選出されたルトコフスカ氏のオンブズ・パーソン就任式が実施され、カルパチョヴァ前オンブズ・パーソンを解任。

大統領の動き

- ・24日、ヤヌコーヴィチ大統領は、経済改革委員会定例会議に出席。
- ・27日、ヤヌコーヴィチ大統領は、クリミア自治共和国を訪問、ピトリオール油製造工場開所式及び太陽光発電所視察等を

実施。

世論調査

[ラズムコフ研究所]

・次の日曜日に最高会議選挙が実施された場合の政党支持率(投票意思の無い者を除く)

「バチキフシナ」党(「変化の前線」党との協力):26.8%、地域党:23.3%、「ウダール」党:10.1%、共産党:7.3%、「スヴォボーダ」党5.7%、「ウクライナ前進」党5.4%等(態度保留:12.7%)

・調査は4月14日から19日にかけて2,008名の成人を対象に実施。

2. 経済

マクロ経済

・26日、中央銀行は、2012年の第一四半期(1~3月)におけるウクライナのGDP成長率を2.5%と評価、同GDP成長率低下はウクライナ産業に対する海外需要の低下によるものとの説明。

・27日、中央銀行は、3月の国際収支を3億7,500万ドルの黒字(2月は5,500万ドルの赤字)、国際収支の改善は資本収支が2月の13億ドルから3月の3,130万ドルに減少したことが要因と発表。

金融・財政

・26日、財務省は、3月時点の対外債務を含めた国家債務が対前月比2.2%増の605億ドル(うち対外債務は370億ドル)に達した旨発表。

IMF

・26日、アザーロフ首相は、国民のためにガス価格を値上げすべきとするIMFの要請を果たす意向はない、IMFと署名したプログラムの実施に関して交渉は行われている、グローバル経済がこのような不安定なフェーズにある状況下でIMF資金の用途についての透明性を担保しており、IMFとしてもウクライナが更に強い緊縮財政を行うべきとの要請はされ得ないと理解しており、ウクライナは他から財政支援を求める意向はない旨発言。

農業

・プリシャジニョク農業政策・食料相は、ウクライナの新たな穀物市場年(2012年7月~2013年6月)において、2,000~2,500トンの穀物を輸出可能な見通しと発言。

チェルノブイリ原子力発電所事故26周年

・26日、チェルノブイリ原子力発電所26周年に際し、同原子力発電所にて原子力発電所新石棺(アーチ)の建設開始式典を開催。同式典に出席したヤヌコーヴィチ大統領は、チェルノブイリ原子力発電所事故克服のため国際社会から受けた支援に対し謝意を表明。

・同日、チェルノブイリ事故処理作業員の年金削減等に反対する約10,000人(主催者発表)の活動家が閣僚会議付近で抗議活動を実施。

チェルノブイリ原子力発電所関連等

・24日、アザーロフ首相は、チェルノブイリによって汚染された地域の回復と再生を開始することが可能であると、これは国民に新たな仕事を生み出すとともに、追加的な歳入も可能にする旨発言。

・24日、立入禁止区域管理庁は、30年以内にチェルノブイリ発電所4号機の燃料を破壊された移動する作業が行われるとし、それには燃料集合体まで到達可能な特殊なロボットを製造することが必要である旨発言。

・26日、アザーロフ首相は、今後10~20年以内の間は原子力に替わる代替エネルギーはないとし、フメリニツキー原子力発電所に新たに2つの発電所及び燃料加工工場を建設する旨発言。

ガス問題

・24日、ボイコ・エネルギー・石炭産業相は、トルクメニスタンを訪問し、ベルディムハメドフ大統領との会談において同国からウクライナへのガス供給問題に関し協議。

・27日、アザーロフ首相は、現在の露ガス価格に関し550ドル/千 m^3 (注:ハルキフ合意による100ドルの値引きをしない場合の価格)まで上昇している旨発言。

3. 外政

グリシチェンコ外相の南米訪問

・23日、グリシチェンコ外相は、アルゼンチンを訪問し、ティルマン外相と会談。両者は、航空、宇宙、農業、エネルギー、科学及び鉱業分野における協力に関し協議。同日、グリシチェンコ外相は、ブドー副大統領兼上院議長と会談し、議会間関係の活性化に関し協議。翌24日、同外相は、訪問中のアルゼンチンにてメディナ首相と会談し、貿易・経済及び投資分野における関係強化に関し協議。

・25日、グリシチェンコ外相は、ウルグアイを訪問し、アルマグロ外相と会談。両者は、二国間関係及び国際情勢に関し意見交換し、両国の政治対話の深化につき確認。同日、グリシチェンコ外相は、ムヒカ大統領と会談し、貿易・経済及び農業分野における関係強化のための政府間対話の開始に関し協議。

・26日、グリシチェンコ外相は、パラグアイを訪問し、ララ・カストロ外相と会談。両者は、二国間貿易の現状及びその活性化の手段につき協議の上、両国友好協力協定等に署名。また、同日、グリシチェンコ外相は、ルゴ大統領と会談し、両国政治、経済及び文化協力に関し協議。同大統領は、ウクライナ人移民がパラグアイ経済及び社会に与えた歴史的貢献を高く評価。また、同日、同外相は、フランコ副大統領とも会談。

・27日、グリシチェンコ外相は、ペルーを訪問し、ロンカリオロ外相と会談において航空、宇宙、文化及び教育等の分野における協力関係発展に関し協議。両者は、貿易・経済関係強化のための両国政府間委員会を年内にキエフで開催することで合意。

4. 防衛

・25日、外務省は、アルゼンチンとの軍事・技術協力に関する二国間協定が間もなく合意される旨発表。
・25日、国防省は、2012年欧州サッカー選手権大会の開催期間、28機のMiG - 29及びSu - 27、16機のMi - 8及びMi - 24により領空を警戒する旨発表。
・25日、国防省は、ウクライナ海軍唯一の潜水艦が試験航海に出航した旨発表、同潜水艦は1970年に建造され1997年にロシア海軍からウクライナ海軍に所属変更されたもの。
・27日、ザマナ参謀総長は、ウクライナ・NATO軍事委員会に出席、来年からウクライナ海軍が海賊対処行動に参加す

る旨発表。

・27日、国防省は、ウクライナ・米国合同軍事演習「シーブリーズ2012」が7月9日から開始、アラブ首長国連邦、アルジェリア、バングラデシュ、カタールの軍人が初めて参加する旨発表。

・27日、外務省は、5月21～22日にシカゴで開催されるNATO首脳会合にヤヌコーヴィチ大統領が出席予定である旨発表。

・27日、インターファクス・ウクライナ通信は、ウクライナが中国に対するL - 15新型練習機用エンジンAI - 222 - 25Fの最初の出荷を5月末までに実施する旨報道。

(了)